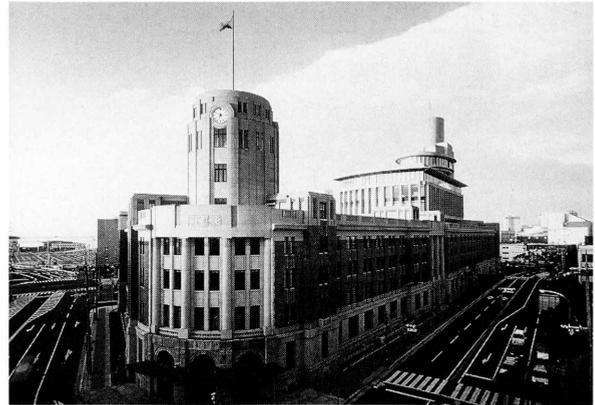


第10回 BELCA賞ベストリフォーム部門表彰物件

神戸税関 本関

所在地：兵庫県神戸市中央区新港町12-1
用途：税関事務庁舎・研修所
竣工：1927年
改修：1999年
所有者：財務省神戸税関
改修設計者：国土交通省近畿地方整備局営繕部
株式会社 日建設計
改修施工者：東急建設株式会社、前田建設工業株式会社
株式会社 新井組、株式会社 関電工
千歳電気工業株式会社、三機工業株式会社
第一工業株式会社、日本エレベーター製造株式会社



「港神戸」のランドマークとして親しまれてきた貴重な建築物の改修による再生であり、その意義を含めて大方の評価を得た作品である。歴史的景観を継承しつつ、高度情報化された税関業務に対応しうる施設の整備と“開かれた税関”として地域の活性化に資する公共資産として見事に再生されている。

旧館を公開スペース、研修所として利用し、口の字型平面の西側を撤去、南北ウィングを延長したかたちで新館を増築し、吹抜けの屋根を取り去って生み出した中庭と新築されたウィングによって形成されたアトリウムロビーを一体化した全体構成は、不自然さを感じさせない。そして、注意深く旧館に合わせた新館のファサードも違和感なく、更にアトリウムロビーの上部に浮かぶ高層部分はモダンなデザインでありながら、旧館の時計塔とバランスのよい対比が計られ、新しいシンボルタワーとなる予感がある。

計画的には、これまでに敷地内に個別に建てられていたいくつかの棟を旧館のイメージにまとめながら街区内を一棟化したことで都市景観の一新を果たし、新しい世紀に船出するシンボルとしての意味を十分に表現している。しかし、単なる復元保存の手法をとらず、現代的且つ、先進的な空間構成、デザインそして技術を駆使して、融和と対比を高いレベルで実現している。それは、全体を貫く計画のコンセプトが明確である為であろう。

この案の実現に至るまで旧館については、全体保存、部分保存、そして全面建替の三案を検討し、社会的な意義や都市景観上の価値など総合的な判断が下されたもので、歴史を紡ぐ手法として新旧部の融合という現在の姿は適切であったと思う。

全体として、総合組織設計の長所がよく表れた作品となっており、建築、構造、設備など各部門の調整が適切に行われており破綻が少ない。また、21世紀を生きる長寿命の建築として、負荷低減対策、自然換気、通風、雨水利用など自然エネルギーの利用、耐震性能の向上などにも工夫を凝らし、改修後の各種データを蓄積し、省エネルギーの効果を検討していることにも好感が持てた。

総じて、レベルが高く、総合的評価の大変高い作品であった。